

令和2年度第1回菊池市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議録

日時 令和2年10月2日（金）10時00分～12時15分

場所 菊池市役所 2階 204会議室

（出席委員）

会 長	澤田 道夫
副会長	笠 愛一郎
委 員	中村 智子
〃	佐藤 由紀
〃	飯塚 暁子
〃	佐藤 満
〃	角田 友和
〃	中原 恵

1. 開 会

2. 委嘱状交付

代表 中村智子委員へ委嘱状を交付

3. 市長あいさつ

（出席者自己紹介）

4. 会長・副会長選任

会長を熊本県立大学の澤田教授、副会長を菊池市商工会の笠会長を選任

（会議の公開および会議録の確認）

会議は公開、記録は要点筆記とし、会長・副会長確認後にHP等で公開とすることを承認

5. 議 題

(1) 令和元年度（2019年度）癒しの里きくち創生総合戦略の検証について

①『癒しの里きくち創生総合戦略』の効果検証について

資料にて事務局より説明

質疑

（委 員）	ホームページのアクセス数について、他の SNS も取り組まれているがフォロワー数は増えているのか。
（事務局）	フォロワー数は徐々に増加している。Twitter は昨日 1,000 人を超えた。

(委 員)	今後はDX（デジタルトランスフォーメーション）を含めて展開されていくと思う。
(委 員)	菊池の魅力発信事業について、熊本市内の子どもたちは、菊池市のことを知らない。菊池渓谷を知らない子どももいる。観光協会のホームページもリニューアルされたがデザインが古く見にくい。天草宝島観光協会のホームページはすごく見やすい。女子向けや若者向け、最近はやっているソロキャンプなどを載せる提案型にしてはと思う。商工会と観光協会とのSNSでの連携もできておらず、菊池エール飯はハッシュタグをつけて行っていたがフォロワー数は少なかった。連携して、女子受け若者に受けることが絶対条件だと思う。
(委 員)	菊池渓谷に行った人によると、渓谷はすごくよかったがビジターセンターが残念だったと聞いている。資料も少ないし、売店に誰もいなく売店なのかわからない状態であった。また行きたくなるようなおしゃれな感じがいいという意見があった。
(委 員)	菊池渓谷は、滞在時間が増えるように高校生だけでも行けるような交通手段が必要だと思う。規制はあると思うが、どこかにキッチンカーが出店できるようなスペースがあればと思う。
(事務局)	菊池渓谷は、福岡・北九州からの来訪者が多い。いろいろな規制もかかっており、規制については、今後、国の方とも協議していきたいと思う。
(会 長)	菊池渓谷の管理は誰がしているのか。
(事務局)	森林管理署から市が借り受け、菊池渓谷を美しくする保護管理協議会が管理している。特に営利活動などの規制について協議していきたい。
(委 員)	ホームページの指標について、新たなSNSへの対応はしているとのことだが、指標として見直す必要があったのではないかと。商工会としても、観光協会等と連携し対応を見直していきたい。
(委 員)	エール飯でのフォロワー数の205件は少ない。ホームページやFacebookは古く、今はInstagramやTwitter、TikTokなどが主流です。
(委 員)	渓谷館のように、市も指定管理者が受けやすいような制度が必要である。後々の目的を考えて事業計画が必要で、その後の活用も含めて見ていく必要がある。
(会 長)	稼げるまちをどうつくるのが問題で、菊池渓谷は大きな武器であるが、それに制約があって活用できていない。そこを、どう工夫していくかが求められている。
(委 員)	菊池川流域の日本遺産の活用は、先日、外部講師を招きガイド向けの研修を行ったが、講師が「菊池渓谷は、コロナ時代において、こんないい場所はない。」と言われ、鞠智城も含めて大変関心を示されてい

	た。菊池渓谷や鞠智城があるのに交通手段や情報発信ができていないため、菊池にきて長期滞在してもらえるように県も一緒になって考えていきたいと思う。
(委 員)	KPI を見ると目標未達成や乖離しているところに目が行くが、イデベンチャー等のすでに伸びているものを延ばすことも重要ではないか。イデベンチャーの体験数だけでなく、申し込み数を把握しているか。
(事務局)	体験数だけで、申し込み数については把握していない。
(委 員)	会社の人からもかなり評判が良く、テレビでも楽しそうな姿を見ている。いいところから先に延ばして、その後にマイナス面を上げていけばいいと思う。
(会 長)	どうしても未達の部分に目が行くが、実際は効果を上げているところもあり、長所を伸ばしていくことも重要な点だと思う。移住・定住の促進も数値が良く、そこを、さらに伸ばしていくことも考えねばならない。
(委 員)	新規就農を獲得するための対策はされているのか。
(事務局)	国では、数年前から新規就農者に対し年間 150 万円で最長 5 年の補助がある。新規就農の場合、50a 以上耕作をしなければならないとなっているが、旧菊池市は 20a で農業をはじめることができる。しかし、制度が見直され平成 29 年度就農より離農した場合、補助金を返還する必要になったことなどから、この事業を活用する就農者が減った。農業の定着率が 2～3 割程度の中で、親元就農など、後継者への対策も必要であり、結婚祝金、就農祝金等も行っている。
(委 員)	菊池基準については、JA とのすり合わせはできているのか。
(事務局)	菊池基準は段階に分けて基準を設けており、県の基準（エコファーマー）とも重複することもある。認知度が上がっておらず、今後は、エコファーマーの方や認定農業者の方に登録してもらえるようにしていきたい。
(委 員)	認定農業者の方で菊池基準登録者の数は把握しているのか。
(事務局)	していない。
(会 長)	菊池は、農業が盛んで稼げる農業の印象があるが、新規就農者が減っていることや菊池基準の登録者が伸びないことは、改めて検討する必要がある。
(委 員)	農業について、害獣対策として柵等の対策はしているけど、個体数の減が必要であり、その対策は行っているのか。柵だけを行っても抜け目のところから猪がまちなかに出沒するなど、耕作放棄地も含めて、大元に対する対策を取っていただきたいと思う。
(事務局)	猪の被害も多くなり、里山にも近づいてきている。熊本地震の時に駆除の機会が減少し、トウモロコシ等の作物に被害がある。議会から

	の質問もあっており、個体数も増えているところから、市民の方にも野菜や食べ物などの残渣を置かないよう促すとともに、箱罟で対策するなどしていきたい。
(会 長)	テレワークやサテライトオフィスが伸びない要因は何か。
(事務局)	テレワーク・サテライトオフィスは増加していないが、アーティスト工房は増えている。どちらかという、ニーズは、アーティスト工房の方が多い。
(会 長)	アフターコロナを見据えた取組が求められると思う。
(委 員)	婚活の推進で、JA では農業者を対象に婚活パーティ等を行っている。市はどのような婚活を行っているのか。行っているのであれば、JA とのタイアップでより効果が出るのではないか。
(事務局)	毎年市内男性との婚活パーティを実施している。各団体等との連携については、市から補助金で対応し、各団体のニーズに合わせた推進を行っている。
(会 長)	市は、ハブ機能を担えると思うので、ご検討いただければと思う。
(会 長)	市内 3 高校への高校進学率については、なかなか伸び悩んでいるが、どう思っているのか。
(事務局)	この表のとおり市内 3 高校への進学率は落ちている。郡部の高校は全体的に定員割れをしており、唯一定員を割っていないのが、翔陽高校。子どもの数の減少が大きな要因ではあるが、本市の子どもたちの進路調査では、熊本市内の高校への進学が多くなっている。
(委 員)	翔陽高校が人気なのが、総合学科があることで魅力的に見える。菊池高校は、普通科・商業科しかなく、魅力的ではない。大学への進学率も中学生はみている。
(委 員)	定数割れには驚いた。市も抜本的な改革が必要であって、学校自体が変わる必要がある。学校運営協議会もようやくできたが、学校と地域との連携をもう一度やり直す必要がある。統合問題が出てきたら、次のターゲットになる可能性がある。市役所も本気になって支援が必要である。
(事務局)	本市から公立高校に総合型の学校運営協議会（コミュニティスクール）の設置を要望し、菊池高校と菊池農業高校が設置され、地域参画型の学校運営が進められている。菊池高校の校長先生も地域に根差したものとするために、学校のスローガンを、「選ばれる菊池高校、伸びる菊池高校、夢をかなえる菊池高校」とし、その実現を目指し、専門委員会を設置されている。市職員も専門委員会に入って協議をしており、魅力ある高校となるように連携していきたい。
(委 員)	アメリカやカナダのコミュニティスクールは、完全に地域一体型となっており、一般の方が夜に音楽室を使える。学校施設の開放など、防犯上の問題もあると思うが、幼稚園から併設されるなどの検討が必

	要だと思う。
(会 長)	高校は県立となるので、市の関与が限られてしまう。学校運営協議会ができたのならば、それを活用しなければ進学率は戻らない。
(委 員)	校長は、愛着のある人を市長が任命するなど、大胆な改革も必要かもしれない。
(委 員)	あいのりタクシー、べんりカーの利用者数について、平成 27 年度から目標値を下回っている。高齢者の事故等で免許返納の問題が上がっているが、あいのりタクシー、べんりカーの利用者を増やすことで、免許返納者数を増やすなどやり方を変える対策も考えられるのではないかな。
(事務局)	平成 26 年度の実績値を基に目標値を設定したものであるが、人口減少も進んでいるものの、ある程度の減で維持している。当初の目的は概ね達成していると考えられるが、路線バス事業も含めて検討をはじめている。今後、第 3 次の総合計画の見直しの中で目標値の見直しなどを行っていく。
(委 員)	菊池の夜の暗さにはびっくりした。街灯もなく、自転車で子どもたちも帰ってくるため、明るくしていただきたい。山間部のスクールバスについてももう少し検討をお願いしたい。菊池市はコンパクトでとても住みやすく、子育てもしやすかったなので、そういう部分を発信していけばいいと思う。
(委 員)	鴨川公園に街灯が付けられたが点いていない。農家からは虫がくるから街灯をつけないでという要望があり、足元を照らすライトを整備してくれたのでとても感謝している。
(委 員)	大きなオレンジリング数が KPI となっているが、オレンジリングの登録者の活動は、どのような活動をされているのか。
(事務局)	オレンジリングについては、認知症サポーター養成講座を受けて認知症について理解を深めていただくことを目的としているので、サポーターが特別な活動をするわけではない。子どもたちに対しても講座を実施している。また、大きなオレンジリングについては、例えば子ども達が道で認知症ではないかと思われる高齢等困っている人に会った時に、大きなオレンジリングを掲げているお店等に伝えてもらい、そこで支援をしてもらうよう実施している。地域全体で認知症に対して理解を深め、住みやすい地域づくりを目指している。最近ではテレビでも認知症についての情報もあるためか、講座受講者は減少傾向となっている。
(委 員)	特定健診の受診率が上がらない理由とは何か。商工会で取り組んでも上がらなかった。
(事務局)	医療費は県平均。受診率の向上は担当課としても工夫はしている。未受診理由は、仕事が忙しく日程が合わない、自分は健康という人も

	いる。治療中の人も対象としており、未受診者のうち病院にかかっている方は 68%。医療機関にかかっているからといって大丈夫と思われる方もある。健診は自分の体を知る入口だと思うので、メタボの改善も含めて医療機関との連携を図り取り組んでいく。
(委 員)	住みやすいまちで、合志市は住民の支援で 200 円支払うことによって、買い物やゴミ出しなどを行うなんでも屋さんがいるとのこと。
(事務局)	高齢者に対しては、有償ボランティア事業をしている。
(会 長)	【戦略まとめ】 ・交流のまちについては、熊本地震、コロナ、日韓関係など外的要因があり達成できていない指標もあったが、「外的要因があったから仕方ない」で終わらせてはいけない。菊池渓谷など菊池が持っている資源を活かし、交流のまちにつなげられるように取り組んでいく必要がある。イデベンチャーや移住・定住の取組みなど、成果が上がっているものもあるので、そのような強みをさらに伸ばしていくことも重要である。 ・稼ぐ力の創出では、新規就農者数やサテライトオフィスの誘致など KPI が達成できていないものも一部認められるが、ある程度は目標を達成している。達成できていない KPI については、引き続き取り組んでいく必要がある。 ・人が輝くまちについては、合計特殊出生率は県平均よりも良いため子育てにやさしい取組みが行われていると思われる。市内 3 高校への進学率の向上については、高校の運営主体が菊池市ではないため対策が難しい面もあるが、引き続き地域との連携により進学率の向上に努めていただければと思う。 ・住みやすいまちについては、あいのりタクシー・べんりカーや特定健診など未達成なものについて、取組み内容を見直していく必要がある。特に、特定健診は毎回指摘されているので、何が原因か検討する必要である。 ・総体的にはかなり目標値（KPI）を達成している項目が多い。他自治体と比較して、菊池市は効果を上げていると認められる部分も多い。達成できないところについては、今後十分検討し、強みを伸ばしていくように努めていただきたいと思う。

② 地方創生推進交付金事業・地方創生拠点整備交付金事業の効果検証についてについて

【地方創生推進交付金事業】	
(会 長)	菊池グローバルビレッジ構想の今後の展望についてどう考えているか。
(事務局)	今年度が3か年事業の最終年度であり、今後については、今のところはっきり決まっていはいない。
(委 員)	この事業での講習会に参加し、きくちマルシェでクラウドファンディングを行った。目標額にも達し、集客にもつながりとてもよかった。若い人達が挑戦できるように今後も行っていただきたい。
(事務局)	検討していきたい。
(会 長)	【まとめ】 ・県北インバウンドは、日韓問題等の影響はあるものの、KPIは概ね達成している。 ・グローバルビレッジ構想事業については、KPIを達成できていないものもあるが、クラウドファンディングの講習会など効果があるものもあるため、今後の展開を検討していただきたい。 ・アグリサイエンスパーク構想事業は、KPIを達成しており、引き続き取り組んでいただく。
【地方創生拠点整備交付金事業】	
(委 員)	加工施設のKPIで、物産館の売り上げは、全て減少傾向とのことだが、全て減少しているのか。
(事務局)	総体的に全て減少している。高齢化問題、近隣の大型店舗、出荷者数の減少が要因と考えられる。加工品については、奥田シェフなどの有名シェフにアドバイスをいただくなど、よりよい加工品を作って品数を増やしていった。
(委 員)	物産館が誰を対象としているのか。ターゲットを絞って、4物産館の今後も検討していく必要がある。
(委 員)	学校跡地活用事業のKPIで、アーティストスタジオの就業については、アーティストの8名が実績値となっているのか。
(事務局)	昨年度に3名入居され、8名となっている。
(会 長)	目標値の11名はどうなっていたのか。アーティストスタジオは満室なのか。
(事務局)	アーティストスタジオは満室で、サテライトオフィスは1部屋に数人就業することを想定し、KPIを11名としていた。
(委 員)	サテライトオフィスは魅力がないといけない。徳島県のような取組はかなり好評と聞いている。
(事務局)	大きな部屋では働きにくいとの問題もあるため、検討する必要がある。

(委 員)	迫水小学校が適していたのではないか。
(委 員)	コロナの影響もあって地方で働きたいという声を聴くが、サテライトオフィスに関する問い合わせは増えているのか。
(事務局)	特に目立った変化はないが、今後、コロナ後の影響も踏まえて働きかけを行っていきたい。
(会 長)	【まとめ】 ・学校跡地については、アーティストの誘致に成功している。サテライトオフィスの誘致については、コロナ後を見据えて検討していただきたい。 ・お試し住宅は、概ね KPI を達成しており、今後も菊池の強みを活かして移住・定住に取り組んでいただきたい。 ・泗水地区賑わい創出と加工施設は、物産館の売上については養生市場だけでなく、物産館全体の売り上げも下がっているが、交付金を活用おり 5 年間見ていく必要があることから、引き続き KPI 達成に向けて取り組んでいっていただきたい。メロンドームの加工場の活用については、昨年 5 月完成であり、そこを活かした取組みを検討していくこと。また、フットパスなどのイベント開催については、コロナの影響も踏まえて慎重に見極めを行っていくこと。

(2) その他

(委 員)	第二期計画について、どのように進めていくのか。
(事務局)	総合計画の改定及びコロナの影響も踏まえて、総合戦略の二期計画についても見直すことを考えている。
(委 員)	地方創生関連の事業において、ハード整備をもっとしてほしい。生きたものに使っていただきたい。
(事務局)	ハード事業は作って終わりになりがちであり、ハードをどう活かすかが検討されていない。そのため、地方創生関連の事業では、ソフト事業の活用を全国的に進めている。

6. 閉 会